

(別記様式第3号)

論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博(医)甲第1200号	氏名	町田 治久
論文審査担当者		主査教授	松山 俊文
		副査教授	関根 一郎
		副査教授	永安 武
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価 特発性炎症性腸疾患であるクローン病と潰瘍性大腸炎では消化管粘膜での T 細胞の活性化の亢進、それともなう慢性持続型の非特異的炎症が特徴とされる。この研究では T 細胞の活性抑制のシグナル伝達に重要な役割をしている <i>CTLA4</i> 遺伝子の多型解析から疾患感受性遺伝子としての可能性を検討したものであり、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2. 研究手法に関する評価 解析には潰瘍性大腸炎患者108名、クローン病患者79名、コントロール健常人200名を用い、<i>CTLA4</i> 遺伝子上の3ヵ所の一塩基多型、1ヶ所の繰り返し多型についてその出現頻度を調べることで検出している。疾患ごとに臨床所見からグループ分けをおこない、グループ間での遺伝子多型の出現頻度から相関解析をおこなった。これらは疾患感受性遺伝子の解析をおこなうときに標準的に用いられる手法である。</p>			
<p>3. 解析・考察の評価 解析の結果、<i>CTLA4</i> 遺伝子の+6230 の A/A が潰瘍性大腸炎の疾患抵抗性と、+49 の G/G がクローン病の瘻孔の症状を呈したものと有意に関連があることを見出した。今後の臨床での発展が期待できる研究成果であり、審査員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			

(注) 報告番号は記入しないこと。